

観光社会資本の事例

テーマ	熱海港海岸における官民一体となった賑わい創出への取り組み
【施設の状況写真】	
 熱海港海岸 遠景	 夜間砂浜ライトアップ
熱海市は地形と街並みが似ていることから「東洋のナポリ」と呼ばれており、地中海的雰囲気が漂う賑わいのあるウォーターフロントの整備がすすめられている。	「百万ドルの夜景」とまで言われ、称賛された夜間景観向上の取り組みの一環として、水際線から宿泊施設を含めた海岸線の景観を考慮した、砂浜ライトアップが実施されている。
【施設の利用写真】	
 熱海サンビーチ	 花火大会  熱海ムーンテラス
夏には、サンビーチを利用した海水浴客が多数訪れる他に、各種イベント、通年に渡る花火大会の開催等により、熱海を訪れる観光客は年間100万人にも達する。	ムーンテラスにおいても多彩なイベントが開催され、大いに賑わっており、海岸のイメージのみならず、熱海の街全体のイメージが大きく変わりつつある。
【観光資源としての利用状況】	
熱海港海岸環境整備事業は計画策定段階から施設完成後の利用を考慮した計画について、県、市、市民の3者による話し合いを行いながら進められてきました。その結果、施設、ビーチの完成と共に観光客はもちろんのこと市民からも大変喜ばれ、各種イベントによる来訪者や海岸を散策する人が増加したほか、市内への花いっぱい運動の広がりと共に各種ボランティア活動が数多く行われるようになりました。 熱海市は、世界の人々から愛される「おしゃれな保養地」を築く「もてなしのまちづくり」を目指しているなかで、本事業において海を楽しめる空間として海岸整備がされたことにより、地元住民をはじめ観光客にも大変喜ばれ熱海の街がさらに大きく変化しようとしています。（平成16年手づくり郷土賞受賞）	

テーマ	熱海港海岸における官民一体となった賑わい創出への取り組み
【社会資本の基礎データ】 ○ 名称 熱海港海岸(熱海サンビーチ、熱海ムーンテラス) ○ 所在地 静岡県熱海市 ○ 事業名 熱海港海岸環境整備事業 ○ 事業主体 静岡県 ○ 事業期間 昭和56年度～	
【社会資本の役割・効果】 ○ 防護 かつては、白砂青松であった自然海岸が、昭和に入ってから都市開発により埋め立てられ、消波ブロックで覆われた海岸に変貌していましたが、地元町内会や商工会が海岸線の復活に向けて立ち上がり、渚地区の海岸利用の向上とよりよい景観形成を目指して、防災機能は損なわずに、環境面、利用面からも人々に親しまれる海岸整備が官民一体となって実施されています。 ○ 環境 海岸整備を契機に熱海ビーチクリーン実行委員会による海岸清掃の継続的な実施、花いっぱい運動の推進による花の植え替え、環境整備等に対する協力者の増加など、地域の環境に対する意識の向上がみられます。 ○ 利用 海水浴客や温泉利用者などの観光客の利用に加え、各種イベントなど市民活動における利用も盛んとなっており、多くの人々に大変喜ばれています。	
【位置図】  現地への交通手段 ・ JR熱海駅（東海道新幹線・東海道線）から徒歩10分（バス5分） ・ 東名高速道路・厚木ICから（60km：約2時間）小田原厚木道路 → 真鶴道路経由 → 熱海ビーチライン ・ 東名高速道路・沼津ICから（30km：約1時間）国道1号線 → 国道136号線 → 熱函道路	
【関連ホームページ】 熱海市役所HP http://www.city.atami.shizuoka.jp/public/index.html 熱海港観光協会HP http://www.tabijozu.ne.jp/atami/	